

# 令和8年度 宇治市乳幼児教育・保育協働研修通信

## みんなで創ろう!「こどもまんなか」研修



テーマ

「子どもにとって楽しい保育室を考えよう」

第3回開催 令和8年6月18日(木)



参加者内訳: 保育所(園)6名・幼稚園6名・認定こども園12名・小学校1名

講師



◆京都教育大学 教育学部 幼児教育科  
准教授

佐川 早季子 先生



子どもにとって楽しい保育室を考えよう  
～子どもの経験から考える～



※ この研修通信は、研修での学びを広く共有するために、研修後の参加者の振り返りシートをもとに作成・発行しています。

園(校)内研修や日々の振り返りにご活用ください。

次回の研修へのご参加もお待ちしております。

ご質問等がございましたら、下記メールアドレスまでお気軽にお問い合わせください。

nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp



## ✧ 保育室見学での気づき

キーワード: 「主体性」「環境構成」「あそびのあしあと」「片付け」



### 参加者が特に印象に残ったこと

- 本物の野菜や包丁を使った料理遊びなど、**子どもの「やってみたい」を大切にしている姿勢**
- 玩具で作ったものをすぐに壊さず「**あそびのあしあと**」として写真に残す工夫
- 「片付け」というワードを使わず、自分で**片付けたくなる環境**をつくっていること
- 廃材を種類別に整理し、**子どもが選びやすい環境**を整えていること
- おもちゃの量や配置を日々見直し、**安心して遊べる空間**をつくっていること



### 実践のポイント

- 子どもの視点で「**遊びたい**」と思える環境を整える。
- 写真や表示を活用し、**片付けを見通しやすく**する。
- 物を減らすだけでなく、**探索や創造を促す素材**を残す。
- 子どもの作品や遊びの記録を掲示し、**継続的な学び**につなげる。



### 園校で実践してみよう

- 「あそびのあしあと」を取り入れ、子どもの**遊びの軌跡を可視化**する。
- 片付けを「**楽しい活動**」に変える工夫を考える。
- 廃材や自然素材を活用し、**自由な発想を引き出す環境**を整える。

## ✧ 意見交流での気づき

キーワード: 「多様な環境」「子どもの視点」「共感」「工夫の共有」



### 参加者の心に最も残った言葉や視点

- 各園の環境構成や課題が異なっても、**子どもを中心に考える姿勢**は共通している。
- おままごとの食材を色分けするなど、細やかな工夫が印象的だった。
- 「**子どもの立場になって遊んでみる**」ことで、環境の改善点が見えてくる。
- 吊るす・飾るなど、**空間を立体的に使う工夫**が参考になった。



### 実践のポイント

- 他園の工夫を自園の環境に合わせて取り入れる。
- **子どもの視点**で空間を見直す。
- 「できた!」という**達成感を生む環境**を意識する。
- 片付けやすさ = **安心感**につながることを意識する。



### 園校で実践してみよう

- 教職員同士で「**子どもの目線**で見た保育室や教室チェック」を行う。
- 吊るす・飾るなど、**空間の使い方を工夫**してみる。
- 同じ架け橋ブロックの園（校）で、**実践例を紹介し合う機会**をもってみる。

## 指導助言者からの学び

キーワード: 「3つのタイプ」「子どもの立場」「保育者の願い」



### 参加者の心に最も残ったこと

- ・ 子どもには遊びや表現の好みがあり、3つのタイプ（もの・感覚・状況）があり、環境の中にこの3つの傾向に応じるもの、それぞれの個性が発揮できる楽しいものを**バランスよく構成**することが大切
- ・ 「**子どもにとってどうか**」という視点が環境づくりの原点
- ・ 保育者や教師の思いや願いは、子どもに伝わる。
- ・ 大人の都合ではなく、**子どもの立場**で考えることの重要性



### 実践のポイント

- ・ 子どもの好みやタイプに**偏りがある環境になっていないか**見直す。
- ・ 保育者や教師自身が「**遊びたい**」「**学びたい**」と思える環境をつくる。
- ・ 環境構成に**保育者の願いと子どもの経験を両立**させる。
- ・ 子どもの「**こうしたい**」を引き出す**仕掛け**を意識する。



### 園校で実践してみましょ

- ・ 3つのタイプを意識して環境を再構成する。
- ・ 保育者や教師自身が実際に遊んでみて、**子どもの気持ちを体感**する。
- ・ 「**子どもにとってどうか**」を常に問いながら環境を見直す。



## 明日からの実践で活かしたいこと

キーワード: 「子どもの視点」「環境の見直し」「言葉かけの工夫」



### 参加者が「まずはこれをやってみよう」と思ったこと

- ・ **子どもの目線**で環境を見直す。
- ・ 「片付けてね」ではなく、「**ぴかぴかにしよう**」など**前向きな言葉かけ**を意識する。
- ・ 保育者や教師自身が**遊びを体験**し、楽しさを感じる。
- ・ 既製品に頼らず、**素材を生かした遊び**を取り入れる。



### 実践のポイント

- ・ **子どもの立場**で空間を確認し、使いやすさを検証する。
- ・ 教職員同士で**環境を見直す時間**を設ける。
- ・ 子どもの「**明日も遊びたい**」を引き出す**環境**を意識する。



### 園校で実践してみましょ

- ・ コーナーの高さや配置を**子どもの視線**で再確認する。
- ・ 教職員が実際に**ごっこ遊び**をして、**環境の使いやすさを体感**する。
- ・ 子どもが**自ら片付けたくなる言葉かけ**を工夫する。



## ✧ 保育室を公開した園より

園やクラスで保育室環境を見直すことで、園や自身の教育・保育の質の向上につながったと思うこと（子どもの姿に既に変化が見られていればその姿）

- ★ 発達や年齢に合わせて製作材料を考え直すことで、製作遊びが広がってきたように思う。
- ★ 「あそびのあしあと」について、置く場所を変えたことで登園時に親子で話したり、友達が作ったものに興味をもって「これ作ってみたい」と教師に伝えたりする姿がみられた。
- ★ 他学年の保育室を見せてもらうことで、それぞれの年齢において大切にしたい経験について、改めて考え直すことができた。
- ★ 子どもにとって使いやすい、分かりやすい環境をより意識するようになった。

## ✧ まとめ

今回の研修では、「子どもにとってどうか」という視点を軸に、環境構成の工夫について学び合うことができました。

また、他園との交流を通して、共通の悩みや新たな発見を共有し、**子どもの主体性を育む環境づくりの大切さ**を再確認し合うことができました。

## ✧ 明日へのヒント

### 環境づくりの「3つの大切な視点」

視点①：「子どもにとってどうか」を最優先する。

- ・ 大人の都合ではなく、子どもが「使いたい」「遊びたい」と思える環境になっているか見直す。
- ・ 子どもになりきって、実際に遊んでみる。
- ・ 子どもの姿を観察し、必要な環境を見直す。



視点②：「保育者の願い」と「子どもの経験」を融合させる。

- ・ 「この遊びを通して、子どもに何を経験させたいか」を明確にする。
- ・ その願いに合わせて、環境を整える。
- ・ 物に込めた思いは、子どもに伝わる。

視点③：「3つのタイプ」に  
応じるものが環境の中にあるか確認する。

- ・ ものタイプ：形あるもので遊ぶ（ブロック・おもちゃなど）
- ・ 感覚タイプ：感触で遊ぶ（砂・水・粘土など）
- ・ 状況タイプ：ごっこ遊び・イメージ遊び



### 環境づくりの「5つの工夫」

1. 「あそびのあしあと」で遊びを可視化してみよう。
2. 片付けを「したくなる環境」に変えてみよう。
3. おもちゃの「量」と「質」を見直してみよう。
4. 「継続できる環境」で遊びを深めてみよう。
5. 「本物を使う経験」で主体性をくすぐってみよう。

